

やっっていけるのか

2025. 7. 11

働き方改革という言葉が定着してきた。教員の職場である学校にも、この波が押し寄せてきている。それはわるいことではない。様々なことがよくなっていく。ところが、如何せん、人が足りない。小学校も中学校も教員が足りていない。特に、小学校は一大事である。システム上は楽になっているはずなのだが、実際には人がいないために、かえって忙しくなっているのではなかろうか。

もう昔のことだが、小学校の先生になった。毎日、クタクタだった。明日の授業の準備をしなければいけない。教材を探しに、退勤後、買い物に行くこともあった。その日、一日一日が勝負だった。日曜日とはいうと、本屋さんに行って授業のネタを探したり、指導法の勉強をしたりしていた。

自分では、それなりにがんばっているつもりなのだが、さほどの成果は上がっていなかったように思う。今、改めて、あの頃の自分を客観的に見てみる。優先順位というものがなかったように思う。何が大事なかがわかっていなかった。何事にもポイントというものがある。指導にもポイントがある。教材の準備にもポイントがある。ポイントがわからないと、無駄なエネルギーを費やすことになる。すべてに全力を傾けることは間違いではないのかもしれない。だが、実際には、極めてむずかしい。

いったい、先輩方はどのようにしていたのだろうか。こちらは、あっぱあっぱだが、先輩方には余裕があった。きっと、力の入れどころを心得ていたのである。毎日、手書きの学級通信を書いている先生がいた。全員の連絡帳や自学ノートに赤ペンでメッセージを書いている先生もいた。まるで、スーパーマンである。少なくとも、あの頃の自分にはそう見えた。

あるとき、ふと考えた。こんな状態で、あと何年、この仕事を続けられるのか。このまま、いつまで体力勝負に挑むのか。年数を重ねれば、そのうち慣れてくるのだろうか。どうも、そうは思えなかった。少なからず、将来への漠然とした不安が襲ってきた。

プライオリティ、優先順位は重要である。仕事に優先順位をつけられるということは、それぞれの仕事にかかる所要時間がわかるということである。かかる時間が同じ程度であれば、どれを先にやるべきかという重要度がわかっているということである。物事にはタイミングがある。見通しがもてることは大切である。きっと、優先順位をつけた時点で、仕事の8割は終わっているのである。ミスも出にくくなる。

やっっていけるのかという不安を抱きながらも、何とか教員を続けることができた。いつの頃かは覚えてはいないが、プライオリティにポイント、そしてタイミングというものを意識できるようになってきた。

思い返すと、もがいていた時間は、決して無駄ではなかったように思う。学校現場の人手不足解消には決定打はないだろう。もしかしたら、やっっていけるのだろうか悩んでいる若い先生方がいるかもしれない。きっと大丈夫である。もがけばもがくほど得るものも大きい。経験者はそう思う。